



2005年文化財ウィーク わがまち再発見
ねりまの文化財めぐり

定する環境保全活動にドネーション(寄付)し、ポイントカードに記録し、顕著な実績を上げたウォーカーを顕彰するという、環境貢献型のウォーキングです。

以上はどれも「カルチャー・ウォーク」という部類のイベントですが、最近私どもはこれを「観歩型イベント」と名付け、大いに推奨しています。読んで字の如く「よく観て歩く」ために、脇道に入り、寄り道して見どころを訪ね、道すがらを楽しむ、すなわち「歩いて学び、歩いて考える」ウォーキングです。東京文化財ウィークはこれを満喫できる絶好のシーズンではないでしょうか。

●文化を学び、その保全に貢献するカルチャー・ウォーク

「文化財」の学習というと、何か肩苦しいイメージが付きまとうので、もう少し幅広い意味も込めて「文化遺産」学習ウォークとでも言いたいところです。娯楽を提供することが目的なら「学習」などという必要はないのですが、ここは敢えて「学習」を強調したいのです。なぜなら、自然も歴史も文化も、大事にして後世に残したいものは皆さんに「知らせるだけ・見せるだけ・楽しんでもらうだけ」では足りないからです。その対象物をしっかりと説明し、分かりやすく解説した上で、出来るだけ多くの皆さん方に「理解し共感していただき」、さらに欲を言えば、「自分たちはどんなことをすべきなのか考えてもらう」ことがどうしても必要だからです。自分たちの文化を残すことは自分たちの魂や誇りを伝えることでしょうから、伝承のためには各世代がこの学習を続けなければならないわけです。



自分たちの地域の文化財についての学習ウォークを面白く開催する方法を考えてみましょう。誰もが積極的に楽しく学習できるようにする方法ですが、原理は難しくないと思います。知的好奇心や向上心に訴え、学習到達成績や社会貢献努力を顕彰してあげる仕組みを用意すれば、生き甲斐や面白さを感じ、自然と挑戦する気持ちが起きてくるでしょう。たとえばその対象物についてのクイズ・ツアーやゲーム型学習ツアーで番付やグランプリを競うとか、知識の検定テストとか、資格能力の認定とか、方法はいろいろあります。

チャレンジ型の文化遺産学習の方法として、すでに「世界遺産検定」とか「江戸文化歴史検定」とか「東京シティガイド検定」とか、本格的な検定制度があります。このようなチャレンジ参加型の学習の仕組みの他に、前述したドネーションの仕組みを加味してはどうでしょうか。すなわち参加したプログラムのうち、これは何とかして大事に守って欲しいと思った文化遺産を参加者が指定し、自分の参加費の一部をその保全資金に寄付します。そしてその地域での文化遺産についての学習検定に合格し、かつ一定の貢献をした参加者を首長がどんどん顕彰する仕組みです。きつとりピーターが増え反響がでてくることでしょう。



2005年文化財ウィーク 小金井市 市内歴史散歩

自然でも歴史でも文化でも、じっくりと「歩いて楽しみ歩いて学ぶ」ことができれば、これほど贅沢な時間の過ごし方はないのかもしれない。ゆっくりとホンモノを味わったり、思索したりする時間をついつい見失いがちな世の中であって、それは限りなく豊かなことであり「スロースタイル」に帰れるまたと無いひと時ではないでしょうか。

文化財ウィークはまさに「心の栄養財」ウィークです。